

ベトナム料理交流会

2023年11月5日に行った文化交流会に続き、高山在住6年目のトゥエンさんを講師に迎え料理交流会を開催しました。日本人の方の参加は定数を超過してしまったため、抽選とさせていただきます。

ベトナムのサンドイッチの「バインミー」と家庭料理の「チキンのスープ」をグループごとに作りました。もう一品は、緑のごはん!?パイナップルのご飯を作りました。ご参加いただいた方からは、「一緒に作って食べることができて楽しかった」や「また、ぜひこういったイベントをやりたい」などのご感想をいただきました。みなさん笑顔だった

のがとても印象的でした。

食を通して他の文化に触れることでたくさんの気づきや学びがあります。そんなきっかけ作りになるイベントを今後も開催していきたいと思います。



開催日: 2024年1月14日(日) 10:00~12:30
会場: 高山市民文化会館 **参加者:** 32名
協力: (公財) 岐阜県国際交流センター、高山市国際協会、Family Planet Japan

まちスポとやま インターン生紹介

ルウン デブテムーレン

富山大学経済学部1年生 モンゴル出身

景を持つ方々と話す機会があり、日本人と外国人がもっと交流できたらいいなと思っていた頃、先輩が「まちスポ」のことを教えてくれました。まちスポとやまでは、外国の方々が日本人との交流を促進するために、総曲輪レガートスクエアの施設を「やさしい日本語」で案内するというプロジェクトを立ち上げました。多くの方に役立つものになればと思います。



- ・好きな日本の食べ物・炙りとり肉の親子丼
- ・好きなこと・バレーボール

ルウン デブテムーレンです。モンゴルで生まれ育ち18歳の時に日本へやってきました。そのきっかけは、自分の夢を追い求めるためでした。現在は富山大学経済学部の1年生で、20歳です。昔から人との交流が大好きで、これまでさまざまな背



今年は大厄
無理すぎないように
1年過ごしたい
田辺



そろそろ
お遍路デビューかな
中川



春が待ち遠しい
野中

最新の情報はこちら
ホームページ更新中
http://machispo.org



さるぼぼコイン
クレジットでの
賛助会員入会が
可能になりました!
詳しくはこちらをご覧ください!

活動を応援して下さる方を募集しています。

- 個人年会費 1口 ¥3,000
- 法人年会費 1口 ¥5,000

納入先
 郵便振替 00840-9-183216 特定非営利活動法人まちづくりスポット
 飛騨信用組合 松泰寺支店(普)0793442 特定非営利活動法人まちづくりスポット
 高山信用金庫 駅西支店(普)0166788 特定非営利活動法人まちづくりスポット

ホームページのほか、noteやSNSも随時更新中。ぜひご覧ください

note <https://note.com/20121101/>

ひだっち blog <https://www.hida-ch.com>

まちスポとやま <https://www.machispo-toyama.org>



新年のご挨拶

認定 NPO 法人まちづくりスポット
代表理事 竹内ゆみ子



元日に起きた能登半島地震で、改めて災害大国の日本を思い知らされました。生き方を問われる私たち。でも私たちは、どんなにがんばっても今起きている災害の被災者と同じにはなれません。しかし当事者でないからこそ見えてくる事もあるのです。私たちはこれまで10年間、課題とそれを解消する活動者の間に立って応援することをずっとやって

きました。どのような応援をするかが大切です。活動者と共に励まし合うことが進む原動力になります。そのための中間支援組織NPO法人まちづくりスポットなのです。緊急支援が終わり、やがて復興が叫ばれる時に備えましょう。いま富山の仲間と共に能登半島地震・富山県災害支援基金「とやまささえあい基金」を立ち上げました。皆様のご支援をお願いします。

令和6年能登半島地震 【とやまささえあい基金】

認定NPO法人まちづくりスポット・まちスポとやまでは、富山県内で被災された方々が少しでも安全、快適に避難生活を送れるようそして一日も早い復興を成し遂げられるよう「とやまささえあい基金」として、富山県内における被災者支援をおこなう富山県のNPO団体等に向けて支援金を届ける基金を作りました。クラウドファンディングも活用しながら支援の呼びかけをしています。また、2月1日から「とやまささえあい相談」の窓口を設け富山県内の支援団体や行政等につなぐ活動もはじめています。

■令和6年 能登半島地震 富山県災害支援金「とやまささえあい基金」概要

寄附受付期間	2024年1月15日(月)～3月20日(水)
クラウドファンディング期間	2024年1月18日(木)～2月29日(木)迄
支援金の交付対象	富山県内の被災地、被災者支援をおこなう富山県内に事業所を持つNPO団体等
支援金の交付方法	2月から申請団体募集を開始予定
交付団体の選定方法	集まった金額を原資に、申請書による審査にて交付団体を決定



クレジットでの寄附はこちら



ゆうちょ銀行からの振込はこちら

認定 NPO 法人への寄附は「寄附金控除」の対象となります。

■主催者およびお問い合わせ先

まちスポとやま「とやまささえあい基金」事務局 (平日 10:00~17:00) TEL.076-461-3332

※直接のご寄附は、事務所に設置の募金箱にて受け付けしております。

とやまささえあい相談

TEL.076-461-3332 (相談受付時間:平日10:00~17:00) まちスポとやま

富山県内で被災された方・県内に避難されている方のための相談を受け付けています。

■協力:ささえあいネットワークとやま(仮称)

さまざまな支援活動をおこなっている富山県内にある団体やグループのネットワークです。

飛び出せ★元気市民
富山



NPO法人
園むすびプロジェクト
代表

かなおか ふじこ
金岡 不二子さん

子どもたちの声でつくる公園
「えん(園・縁)」で結ばれてゆく

日本一小さな村「舟橋村」で、子どもたちと公園を核に進めてきた取り組みを元に、総曲輪レガートスクエアのイベントも盛り上げてくれている金岡さんにお話をうかがいました。

きっかけ

園むすびプロジェクト代表、三児の母で、助産師の資格、と異色の経歴を持つ金岡さん。公園マネジメントに関わるようになったのは、嫁ぎ先であった金岡造園で働き始めたのがきっかけでした。誰もが分け隔てなく使える公平な財産である公園。これをもっと暮らしの中に活かさないか。そんな思いの中、社長であるご主人が舟橋村の「子育て共助のまちづくりモデル事業」コンペに参加。そこで、「集まった人がコミュニケーションを取れたり悩みを相談出来たりそんな優しい場所としての公園にしていきたい」との想いを伝えたところ、舟橋村とともに新たな公園の形に挑戦することになったのです。NPO法人を発足し、最初はお手伝いから始めた事業をご主人から引き継ぎ、金岡さんが代表を務めることになりました。

子どもが公園を通じて「縁」を結ぶ

はじめは活動がなかなか広がらず、苦勞の日々。「まずは公園で一番遊ぶはずの子どもの声を聞かないと始まらない」と思い立った金岡さんは、舟橋村の学童施設で交流しながら、子どもたちの声で公園を創りあげていく「こども公園部長」を募集しました。手を挙げた7人の子どもたちは、芝生しかない公園「オレンジパークふなはし」を前に、「未来予想図」に思い思いの理想の

公園を描いてくれました。「木登りがしたい」「秘密基地を作りたい」「全員で鬼ごっこをしたい」…。クラウドファンディングを立ち上げると全国から支援が集まり、「月イチ園むすび」と名付けたイベント等で、アイデアの一つひとつ実現させてきました。毎年小学生有志で募集する公園部長は、卒業メンバーを含めこれまで50人以上。子どもたちだけでなく、家族、地域の方々、サポートする学生、クラウドファンディングで全国から応援してくれる方々など、子どもたちは公園を通じて様々な「縁」を結んでくれました。

100%やって良かったと思う

全くの白紙から子どもたちと企画をすることもありました。ときに大人が「これは無理だろう」と思う無謀な挑戦でも「子どもたちとの約束は絶対果たしたい!」、そんな意地だけで乗り切ってきた場面も多かったそうです。子どもたちは提案したことを実現できてうれしい、その姿に大人は励まされる、そんな好循環に支えられています。

学校でも家庭でもない、正解や不正解も順位もない、そんな温かな「縁」で繋がる新たな居場所。公園を中心とした「こども公園部長」の仕組みを今後もっと広めていきたいと語ってくれました。

(まちスポとやまサポーター 神戸景湖)

Information NPO法人園むすびプロジェクト

「月イチ園むすび」での企画を募集しています！
ぜひお気軽にご連絡ください。



ホームページ



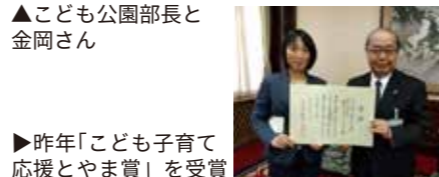
Instagram



facebook



▲こども公園部長と金岡さん



▶昨年「こども子育て応援とやま賞」を受賞

第9回全国まちスポ交流会 in 岡山

■現在、全国に10拠点のまちスポネットワークがあり、年に一回全国からスタッフが集結し、NPO活動にまつわる講座の受講や交流・意見交換会を目的として「全国まちスポ交流会」を開催しています。今回第9回目は岡山県にある「ハッシュタグ岡山」で開催されました。1日目は、まちスポの歴史を学び、ワークショップ・懇親会では、各拠点の方たちと親睦を深めることができました。2日目には、北長瀬コミュニティフリッジ見学・3周年感謝式にも参加しました。当初の内容と変更して行われた「能登半島地震・災害支援にまちスポはなにができるか」では富山の現状報告と各地の支援状況などを共有いただきました。時間が足りないくらい、実りある2日間でした。この学びを活動に活かしていけるように取り組んでいきたいです。



開催日：2024年1月18日(木)
・19日(金)
場所：ハッシュタグ岡山



まちスポ飛騨高山 第24回スキマ研究会

みんなの選択Vol.2 ~ディスレクシアへの向き合い方~



開催日：2024年1月25日(木) 19:00~21:00
会場：まちスポ飛騨高山 参加者：41名

※限局性学習障がい(学習障がい)のうち読み書きの定着が特異的に難しい状態を発達性読み書き障がい、発達性ディスレクシアと呼びます。

■1月のスキマ研究会は、言語聴覚士・臨床神経心理士の村田翔太郎さん(高山赤十字病院リハビリテーション科所属)をスキマ案内人としてお呼びし、「発達性ディスレクシア(※)」について知り、当地域での課題について一緒に紐解いていきました。日本語話者の場合、約25人に2人の割合で発達性ディスレクシアの特性をもつと考えられています。参加者の中には、放課後等デイサービス職員、精神科職員、フリースクール職員、など困り感を抱える児童に関わる参加者が多くありました。村田さんは、低学年や早い段階で困り感に気づき児童の特性に合った学びを提案・提供する必要があると強く訴え、学校内外でできる支援の仕方を参加者を含めディスカッションすることが出来ました。

まちスポ飛騨高山

障がいのある人たちの表現活動を守る著作権セミナー

■障がいがあり自分の作品を自分自身の力で世に発表できない人たちのために第三者がそのお手伝いをする際に配慮すべき点や関わり方について同業種で考えたいと企画されました。最初に講師から、著作権と著作者人格権の違いや基礎的知識が紹介されました。質疑応答では、ケースバイケースであることが多く、一つ一つ吟味しスタッフ間で共有することが大事と講師からの回答がありました。一番問題なのは、本人が自分の作品がいつどこで展示されているか分からない状態であるため本人が理

解出来る契約が必要になってくると加えられました。第2部交流会では、それぞれの事業所でア



ート部門を担当しているスタッフが日頃の課題感や問題意識などを共有することが出来ました。

開催日：2024年1月25日(木) 10:00~12:00

会場：吉城山ゆり園 地域交流棟「かつこうの森」
(岐阜県高山市国府町宇津江440-1)

参加者：合計29名(現地参加19名、オンライン10名)

共催：HIDAともにフェス、TASCぎふ(岐阜県障がい者芸術文化支援センター)、認定NPO法人まちづくりスポット

協力：社会福祉法人 飛騨慈光会